東北支部総会および総会記念講演「公民連携のまちづくり」報告
―講演者：渡邉浩司先生　民間都市開発推進機構 常務理事（日本都市計画学会会長）

古藤 浩　東北芸術工科大学

1. はじめに

令和７年４月19日（土）14:30～17:00，東北大学災害科学国際研究所１階セミナー室にて令和７年度東北支部総会と記念講演会が開催された。令和２年度より，コロナの影響でオンラインやハイブリッド形式での開催が続いていたが，本年より対面のみの会に戻ることができ，25名の参加があった。

例年通りに活動報告・支部決算・活動計画・支部予算について報告承認された。新たなこととして東北支部では令和７年度より顧問制度を導入することが決まり，総会での支部規程への顧問項目の追加に続いて，元支部長・元副支部長の６先生が顧問にご就任することが報告された。また，令和６年度東北支部研究発表会（３月２日開催）より，将来を担う若手による優秀な発表に対して「優秀発表賞」を授与することとなったことが報告された。合わせて令和６年度は９名の発表が優秀発表賞に表彰されたことが報告された。さらにアドバイザリー会議委員からの報告もなされた。

2. 総会記念講演「公民連携のまちづくり」

渡邉浩司先生による講演は，1. 都市政策の変遷と公民の役割，2. コンパクトなまちづくりへの流れ，3. 豊島区での経験とウォーカブルなまちづくり，4. 市街地整備 2.0，5. これからの公民連携まちづくり，という５章構成の充実した内容で頂くことができた。

本題に入る前にご自身の紹介にて，建設省入省後最初に赴任なされたのが仙台（宮城県土木部都市計画課）とキャリアのスタートが東北だったという東北支部にとってはうれしいお話しから入っていただいた。

写真１　ご講演の様子

1. 都市政策の変遷と公民の役割，2. コンパクトなまちづくりへの流れ，の話題では，初期は基盤インフラの提供が官の役割だったが，近年はインフラの整備だけでは官の役割は済まず，官民の役割分担を考え直さなくてはいけないこと，そのやるべきこととしてコンパクトシティに連携して，町中に人の流れがあるようにしてこそ都市の活性化が起きることが提起された。

それに応じて 3. 豊島区での経験とウォーカブルなまちづくり，4. 市街地整備 2.0，ではいかにして公共がパートナーとなりながら人間中心の空間を実現していくかを豊島区，前橋市での事例紹介を通して紹介された。そこでは“（人間中心の空間作りを）実現する人”の存在・そのネットワークの重要性や，そのような人材の発掘や育成の重要性が示された。

まとめとなる 5. これからの公民連携まちづくりで強調されているのは人間中心のまち作り，いかにして民間が自ら動く場を作るか，そして行きすぎた利益重視にならないことであった。人・企業の取り組みと官による再開発などの事業の取り組みが連鎖的に働きあい，連鎖的に地域の価値が高まるようにすること，そして，地域の価値が高まれば持続可能性も高まりまた企業価値も高まることが話された。

3.「公民連携のまちづくり」を聴いて

東北支部域は人口減少とモータリゼーションの先頭を行っている地域なので，“町中の人の動き（人が歩いている）”というと現在逆行している感があって難しさを感じるが，あらためて人が基本であり，また自分事として自分の街の可能性を信じて活動する人のいる都市を考えていく，追求していく必要性を痛感した講演であった。

写真２　参加者集合写真